

Oris SA Ribigasse 1 4434 Hölstein Switzerland oris.ch

10.18 Printed in Germany

# Product Manual



**ORIS**  
HÖLSTEIN 1904

# 取扱説明書

|                        |     |                   |     |
|------------------------|-----|-------------------|-----|
| イントロダクション              | 99  | 時計を手首にフィットさせるには   | 110 |
| 使用開始にあたって              | 100 | レザーストラップ付時計       | 110 |
| チャプター1                 | 100 | ラバーストラップ付時計       | 110 |
| スタンダードリュース             | 100 | メタルプレスレット付時計      | 110 |
| ねじ込み式リュース              | 100 | フォールディングバックルの微調整  | 110 |
| オリスクイックロック式 (QLC) リュース | 100 | ノート               | 112 |
| ねじ込み式プッシュボタン           | 100 | 精度                | 112 |
| 自動巻時計                  | 101 | クロノメーター           | 112 |
| 手巻時計                   | 101 | 防水性               | 114 |
|                        |     | 使用とメンテナンス         | 114 |
| 時計のセットと操作              | 102 | テクニカルインフォメーションと概要 | 116 |
| 曜日、日付、時刻               | 102 | シンボル表示            | 116 |
| 日付のセット                 | 102 | ケースとストラップ部分のメタル素材 | 117 |
| ワールドタイマー               | 102 | PVDコーティング         | 117 |
| サードタイムゾーンとコンパス付        |     | サファイヤクリスタル        | 117 |
| ワールドタイマー               | 103 | ミネラルガラス           | 118 |
| セカンドタイムゾーン用回転ベゼル       | 104 | プレキシガラス           | 118 |
| パーティカルリュース付インナー回転ベゼル   |     | 発光性ダイヤルと針         | 118 |
| セカンドタイムゾーン指針           | 104 | メタルプレスレット、レザー、    |     |
| 24時針付 セカンドタイムゾーン       | 104 | ラバーストラップ          | 118 |
| 24時針付 セカンドタイムゾーンおよび    |     | 月齢カレンダー           | 119 |
| 回転ベゼル都市表示              | 104 | タイムゾーン            | 120 |
| クロノグラフ                 | 105 | ムーブメント            | 120 |
| コンプリケーション              | 105 | 国際保証              | 122 |
| レギュレーター                | 106 | 使用上の注意事項          | 122 |
| ポインターカレンダー             | 106 | 使用上の禁止事項          | 123 |
| 自動巻アラームウォッチ            | 106 | オーナー証明書           | 125 |
| タキメータースピードを計る          | 107 |                   |     |
| テレメーター—距離を測る           | 107 |                   |     |
| ダイバーズウォッチ用60分目盛付回転ベゼル  | 108 |                   |     |
| ヘリウムバルブ                | 108 |                   |     |
| 時計をコンパスとして使用する         | 108 |                   |     |

変更の可能性あり



この度はオリスの時計をご購入いただき誠にありがとうございます。また、機械式腕時計の世界へようこそ。オリスの時計はどれもすべて機械式です。

お買い上げいただいたオリスの時計は、大量生産で市場にありふれたものとはかけ離れた、マイクロメカニカル技術を駆使したムーブメントとスタイリッシュでシームレスな外観を併せ持つ、スイス時計製造技術の真の価値を体現した逸品です。オリスは1904年創業当時からの長い伝統を受け継いでいるだけでなく、時計作りのクラフトマンシップとF1、ダイビング、アヴィエーション界などのプロフェッショナルの意見を取り入れ、洗練された'High-Mech(ハイメカ)'システムの融合でもあります。

またもう一つの大切な特徴として、オリスの時計はバッテリーを必要としないことがあります。私たちの時計はすべてあなたの動作や手で巻くことによって、時を刻んでいます。

詳しい情報はオリスサイト [www.oris.ch](http://www.oris.ch) をご覧ください。また、オリスメンバーズクラブ：マイオリスにご登録いただくと無料で保証期間延長サービスを受けることができます。

オリスの時計と共に上質な時間をお楽しみ下さい。

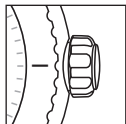
ウーリックW.エルゾック  
会長

指示矢印の説明：

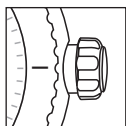
- ▶ = 操作方法
- = お役立ち情報

## CHAPTER 1

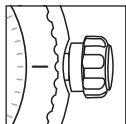
ほとんどのモデルは下記説明があてはまりますが、当てはまらないタイプのムーブメントを使用しているモデルに関しては別ページにて説明しています。



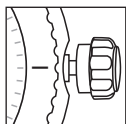
0.  
リューズロック  
状態（通常位置）



1.  
ゼンマイ巻上  
げ位置



2.  
日付セット位置



3.  
時刻セット位置

●水中では絶対に上記の操作を行わないで下さい。

## 通常モデルのリューズ

●通常モデルのリューズは精度の高い部品です。リューズは水の浸入を防ぐ防水加工が施されています。オリスでは約半分のモデルに採用されています。

▶図1の位置にあるリューズは以下のCHAPTER通りにすぐに操作ができる状態です。

## ねじ込み式リューズ

●いくつかのモデル、特にダイバーズウォッチにはねじ込み式リューズが採用されています。このリューズを操作する場合は、最初にリューズを回してロックを解除する必要があります。

▶リューズを反時計回りに回してロック解除して下さい。

▶リューズが1の位置になったら、以下説明に従い操作が可能な状態です。

▶操作後はリューズを押し込みながら時計回りに回してしっかり元の位置に戻します。

▶リューズがしっかりとねじ込まれているか、時計ご使用時に時々確認して下さい。

●リューズがきちんとねじ込まれ

ている状態でのみ時計は防水機能を発揮します。

## クイックロック式(QLC)リューズ

●オリスが開発したクイックロック式リューズは、ねじ込み式リューズよりもロック解除が簡単に行えます。

▶リューズを押しながらゆっくりと少しだけ反時計回りに回してロック解除して下さい。

▶リューズが1の位置になったら、以下説明に従い操作が可能な状態です。

▶セット後は、リューズを押しながら少しだけ時計回りに回して再びロックして下さい。

●リューズがきちんとロックされている状態でのみ時計は防水機能を発揮します。

## ねじ込み式プッシュボタン

●いくつかのモデル、特にダイビングクロノグラフウォッチには、ねじ込み式リューズ同様、ねじ込み式プッシュボタンがあります。

▶プッシュボタン根元にあるリング

ネジを反時計回りに止まるまで回して下さい。

▶これで操作が可能です。

▶操作後はリングネジをゆっくり時計回りに回してしっかり元の位置に戻します。

●プッシャーリングネジがきちんとねじ込まれている場合に限り時計は防水性を保ちます。

●プッシャー操作は水中では絶対に行わないで下さい。

## 自動巻ムーブメント

●時計を1日12時間ほど着用されればリューズを手で巻上げる必要はありません（1日の運動量によって巻上げ量は異なります）。腕の動きによって赤いローターが回転し、ゼンマイを巻上げてくれます。夜、時計をはずした後も時計は持続して動き続けていますが、着用時の運動量によっては止まってしまういます。

もし、止まってしまった場合は下記の通り操作する必要があります：

▶ねじ込み式もしくはクイックロック式リューズの時計の場合はCHAPTER1の指示に従ってロックを解除して下さい。

▶リューズが図1の位置の状態、時計回りに12回ほど回して下さい。（秒針が動き始めます。その後時刻を合わせて下さい）

▶下記操作を実行して下さい。

▶CHAPTER1の説明通りに、リューズをロックして下さい。

●クリスタルケースバックの自動巻モデルは、オリスの品質の証であるレッドローターがムーブメントを巻上げる様子を見ることができます。

## 手巻ムーブメント

●手巻ムーブメントの時計では、手でゼンマイを巻く必要があります。ゼンマイを一杯に巻上げた状態で最大42時間動きます。

▶ねじ込み式もしくはクイックロック式リューズをCHAPTER1の指示に従ってロック解除して下さい。

▶リューズを時計回りに巻きます。リューズはどちらの方向にも回ります。

▶軽い抵抗を感じたら巻くのをやめて下さい。ゼンマイが一杯に巻上げられた状態です。

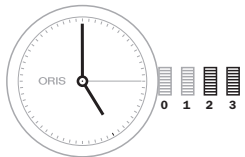
●それ以上無理に巻上げるとゼンマイが破損する恐れがあり、この場合の修理はお客様負担となります。

▶1日に1回巻いて下さい。

▶CHAPTER1の指示に従い、リューズをロックして下さい。

## 曜日、日付、時刻

ここでこの操作方法は曜日および日付表示ウィンドウもしくは、曜日および日付表示針搭載の多くのモデルで適用されます。オリス コンプレクションやオリス クロノグラフ(ムーブメント676)などのモデルはここでは例外となり、別セクションにて説明しています。



位置0. リューズロック状態 (通常位置)

位置1. ゼンマイ巻上げ位置

位置2. 日付セット位置

位置3. 時刻セット位置

- ▶ねじ込み式もしくはクイックロック式リューズをチャプター1の指示に従ってロック解除して下さい。
- ▶リューズを3の位置まで引いて下さい。
- ▶日付が変わり、その後6:00の位置になるまで針を進めて下さい。

●長短針が午後9時から午前3時の間にある時は機械を破損させる恐れがある為、日付・曜

日の早送りは絶対に行わないで下さい。

- ▶リューズを2の位置まで押し戻して下さい。
  - ▶リューズをムーブメントのタイプにより、時計回りもしくは反時計回りに回し、現在の日付にセットして下さい。
  - ▶曜日表示ウィンドウがある場合、リューズを反時計回りに回し、曜日をセットして下さい。
  - ▶リューズを3の位置まで引いて下さい。
  - ▶時刻セッターリューズを回して現在の時刻に合わせて下さい。
  - 時刻は24時間設定ですので、午後の場合はもう一周進めて下さい。
- この時点でリューズを1の位置まで押し戻せば、今セットした時刻で使用開始できます。

- ▶リューズを1の位置まで押し戻して下さい。
- ▶チャプター1の指示に従い、ねじ込み式もしくはクイックロック式リューズをロックして下さい。

## 日付のセット

●31日未満の月の場合は、日付を手動で次の月の1日にセットする必要があります。

(リューズ2の位置)

- ▶ねじ込み式もしくはクイックロック式リューズをチャプター1の指示に従ってロック解除して下さい。
- ▶まずリューズを3の位置まで引いて6時の位置に針を進めて下さい。その後2時の位置に戻し、ムーブメントのタイプにより時計回りもしくは反時計回りに回して希望の日付にセットします。
- ▶リューズを1の位置まで押し戻して下さい。
- ▶チャプター1の指示に従い、ねじ込み式もしくはクイックロック式リューズをロックして下さい。

## ワールドタイマー



●オリス ワールドタイマーは独立した2つのタイムゾーン表示：(T1ローカル (現地) タイムとT2ホーム (母国) タイム) を備え、それぞれに時計針・分針があります。T1とT2の分針は運動しています。T1の時針は2つのプッシュボタンを押すことで1時間ずつ前後のセットが簡単にできます。日付は23:00と03:00の間に、前日/翌日に変更できます (オリス特許)。また、T2にはデイ・ナイト表示が搭載されています。

位置0 リューズロック状態 (通常位置)

位置1 ゼンマイ巻上げ位置

位置2 日付変更位置

位置3 時刻セット位置

4 T1(ローカルタイム)

5 T2(ホームタイム)

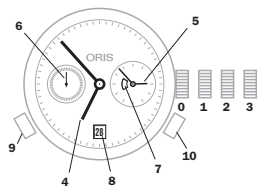
6 スモールセコンド

7 デイ・ナイト表示

8 日付

9 プッシュボタン (T1用)

10 + プッシュボタン (T1用)



ローカルタイムおよびホームタイムの同時刻合わせと日付のセット:

- ▶ねじ込み式もしくはクイックロック式リューズをチャプター1の指示に従ってロック解除して下さい。
- ▶リューズを3の位置まで引き、反時計回りにリューズを回しT2の時刻を午前5時にセットして下さい。デイ・ナイト表示はダークを表示します。
- ▶+ボタンを使ってT1の時刻も午前5時にセットします。(日付は01:00 - 03:00の間に変更します)

▶リューズを2の位置まで戻し、反時計回りに回して日付をセットして下さい。

▶再びリューズを3の位置まで引き、現在の時刻に合わせて下さい。午後の時刻の場合はもう1周回して下さい。

●この時点でリューズを1の位置まで押し戻せば、今セットした時刻で使用開始できます。

▶リューズを1の位置に押し戻します。

▶チャプター1の指示に従い、リューズをロックして下さい。

●歯車の噛み合わせの関係で、T1とT2が完全に同期するまでおよそ10分ほどかかります。また、T1とT2の表示誤差は1分が許容範囲となっています。

T1(ローカルタイム)のセット:

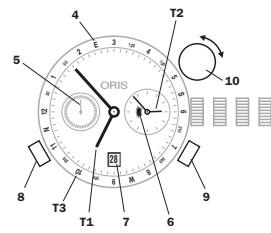
▶もしくはプッシュボタンでT2(ホームタイム)との時差を設定します。

●時刻のセット中に午前0時を過ぎれば、日付も前/翌日に修正できます。(オリス特許)

## サードタイムゾーンとコンパス付ワールドタイマー



●前述の「オリス ワールドタイマー」チャプターでの機能に加えて、このモデルは独立した第3時刻表示のインナー回転ベゼルと方位を示すコンパス機能も搭載しています。このモデルは常に第3時刻表示機能が必要とする、パイロット、頻りに旅行する人、国際的なビジネスマンなどにとって理想的な時計です。



- T1 出発地の時刻
- T2 ホームタイム または GMT
- T3 目的地の時刻
- 4 コンパス目盛
- 5 スモールセコンド
- 6 デイ・ナイト表示

- 7 日付
- 8 プッシュボタン T1
- 9 プッシュボタン T1
- 10 T3および方位調整用パーティカルリユーズ

#### ○上図では

T1 6:53 または 18:53を表示  
T2 02:53  
T3 09:53 または 21:53

#### 同期しているT1とT2の時刻と日付のセット:

- ▶ “ワールドタイマー”チャプターを参照して下さい。

#### T3のセット:

- ▶ T3の時刻を決めます。(目的地時刻もしくは出発地と異なる時刻など)
- ▶ パーティカルリユーズ(10)を引き上げて下さい。
- ▶ パーティカルリユーズ(10)を時計回りにもしくは反時計回りに回して、時刻を調整します。
- ▶ パーティカルリユーズを押し戻し、通常の位置にします。

#### コンパスのセット:

- ▶ 時計を手首からはずして操作して下さい。
- ▶ パーティカルリユーズを引き上げ、ベゼルを回して時計と12時の中間点にコンパスの南をセットします。(18:00と6:00は時計

と12時の間の角度が大きくなります。)

- ▶ パーティカルリユーズを押し戻し、通常の状態にします。
- ▶ 時計を太陽に向けて、コンパスベゼル上の方位点を読みます。
- ▶ “時計をコンパスとして使用する”内の図を参照して下さい。

#### セカンドタイムゾーン用回転ベゼル:

- ▶ 回転ベゼルの回し希望の第2カ国時刻を設定します

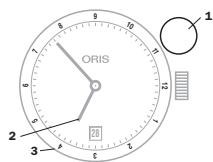


- 上記の例では、セカンドタイムゾーンは08:53または20:53を示しています。

#### パーティカルリユーズ付インナー回転ベゼル セカンドタイムゾーン表示

- ▶ パーティカルリユーズ(1)を引き上げて下さい。
- ▶ リユーズを時計回りもしくは反時計回りに回して希望の第二時刻(T2)をセットします。

- ▶ パーティカルリユーズを押し戻し、通常の位置にします。

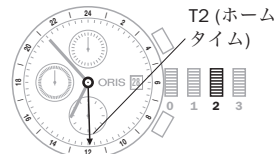


- 1 パーティカルリユーズ
- 2 T1(ローカルタイム)
- 3 インナー回転ベゼル T2 (ホームタイム)

- 上図では、T1は06:53 または18:53、T2は03:53 または15:53を示しています。

#### 24時間針付セカンドタイムゾーン

- ▶ ねじ込み式もしくはクイックロック式リユーズをチャプター1の指示に従ってロック解除して下さい。
- ▶ リユーズを2の位置まで引き、反時計回りに回してT2(ホームタイム)の時刻をセットします。
- ▶ リユーズを1の位置に押し戻して下さい。
- ▶ チャプター1の指示に従い、リユーズをロックして下さい。



- 上図の例では、セカンドタイムゾーンは11:53を示しています。

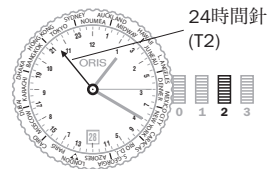
#### 24時間針付セカンドタイムゾーンおよび回転ベゼル都市表示

- ▶ ねじ込み式もしくはクイックロック式リユーズをチャプター1の指示に従ってロック解除して下さい。
- ▶ リユーズを2の位置まで引き、時計回りに回してT2(ホームタイム)の時刻をセットします。
- ▶ リユーズを1の位置に押し戻して下さい。
- ▶ チャプター1の指示に従い、リユーズをロックして下さい。
- ▶ T都市名表示がある回転ベゼルの、合わせたい都市 (ホーム都市) と T2 (24時間針) が合うまで回して下さい。
- この状態で、回転ベゼルの記載されている都市が指す時刻がその都市の現地時刻になります。ただし、この設定ではサマータイムは考慮されていません。
- ▶ 再び回転ベゼルの記載されている

都市の時刻を読み取るには、T2 (24時間針) が“ホーム都市の時刻”を示していると仮定して、常に回転ベゼル“ホーム都市”をT2 (24時間針) に合わせ直して下さい。

#### 例:

- ロンドン (GMT) でのローカルタイムが13:20の時、24時間針はホームタイムである香港の時間、21:00を指しています。24時間針がホームシティとして香港を指すように、回転ベゼルの合わせます。すると、ニューヨーク08:20、カイロ15:20、モスクワ16:20など、ベゼルの書かれているその他都市時刻も正確に読み取れるようになります。この設定ではサマータイムは考慮されていません。



#### クロノグラフ

- オリス クロノグラフは時刻と日付表示に加えてストップウォッチ

機能を搭載しています。日常使いに大変便利な機能です。

- ▶ リユーズとプッシュボタンの操作は“使用開始”チャプターを参照して下さい。
- ▶ 時刻と日付設定は“時計のセットと操作”チャプターを参照して下さい。(⇒ムーブメント676搭載モデルは下記を参照)

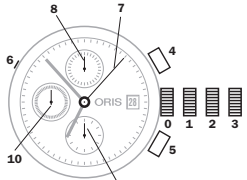
#### 計時停止とすべてのクロノグラフ表示をリセットする:

- ▶ プッシュボタン4を押すとクロノグラフ針が作動し始めます。
- ▶ 再度プッシュボタン4を押すとクロノグラフ針が止まり、計時がストップします。
- ▶ もう一度プッシュボタン4を押すとクロノグラフ針が再び動き出し、先程の時間から続いて計時をします。
- ▶ さらにプッシュボタン4を押すとクロノグラフ針が止まり、計測がストップします。
- ▶ プッシュボタン5を押すとすでに停止しているクロノグラフ針とミニッツおよびアワーカウンターカウンターがゼロ位置にリセットされます。

#### クロノグラフ計時を読み取る:

- クロノグラフ秒針(7)では、1/4秒から最大60秒までの経過時間をダイヤル上で読むことができます。
- クロノグラフ分針(8)で最大30分

までの経過時間を読むことができます。  
クロノグラフ時針(9)で最大12時間までの経過時間を読むことができます。



位置0 リューズロック状態 (通常位置)

位置1 ゼンマイ巻上げ位置

位置2 日付セット位置

位置3 時刻セット位置

位置4 スタート/ストップボタン

位置5 リセットボタン

位置6 ムーブメント676・日付セット用プッシュボタン

▶プッシュボタンを専用ツールもしくは爪楊枝等で押し、希望の日付にセットします。

7 クロノグラフ秒針

8 クロノグラフ30分積算計

9 クロノグラフ12時間積算計

10 通常の秒針

○通常の秒針が意図的に搭載されていないモデルもあります。この場合、クロノグラフ秒針(7)を通常の秒針としてご使用することができます。

### コンプリケーション

▶ねじ込み式もしくはクイックロック式リューズをチャプター1の指示に従ってロック解除して下さい。

▶リューズを2の位置まで引いて下さい。

▶リューズを回転させ針を進め、ムーンフェイズ表示を進めていきます。ムーンフェイズは22:00-23:00の間を進みます。

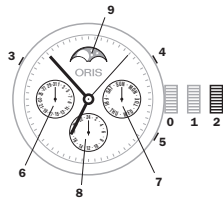
▶表示が現在のムーンフェイズに来た後、日付変更を過ぎ、時刻を午前5時にセットして下さい。

▶プッシュボタン3を専用ツールもしくは爪楊枝等で押し、希望の日付にセットします。

▶プッシュボタン4を押して曜日をセットします。

▶リューズを操作し現在時刻をセットします。午後の時刻セットの場合はもう1周回して下さい。

○(時計は24時間で作動しています)この時点でリューズを1の位置まで押し戻せば、今セットした時刻で使用開始できます。  
▶リューズを1の位置に押し戻して下さい。  
▶チャプター1の指示に従い、リューズをロックして下さい。



位置0 リューズロック状態 (通常位置)

位置1 ゼンマイ巻上げ位置

位置2 時刻とムーンフェイズセット位置

位置3 日付セットプッシュボタン

位置4 曜日セットプッシュボタン

位置5 セカンドタイムゾーン表示セットプッシュボタン

位置6 日付表示

位置7 曜日表示

位置8 セカンドタイムゾーン表示

位置9 ムーンフェイズ表示

### セカンドタイムゾーンのセット:

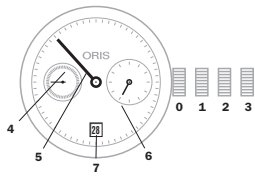
○この設定はいつでもできます。  
▶プッシュボタン5(セカンドタイムゾーン)を専用ツールもしくは爪楊枝等で押し、時刻をセットして下さい。

### レギュレーター

○レギュレーターはもともとは主に時計技術師が製造した腕時計をテ

ストや調整するために使用していた精密時計でした。針同士が重なるのを避けるため、針がそれぞれ独立しています。レギュレーターでは、分針のみがセンターに配され、秒針と時針は小さな独立したサブダイヤルに配置されています。

▶リューズ操作、時刻と日付のセットはチャプター1を参照して下さい。



位置0 リューズロック状態 (通常位置)

位置1 ゼンマイ巻上げ位置

位置2 日付と曜日セット位置

位置3 時刻セット位置

位置4 秒針

位置5 分針

位置6 時針

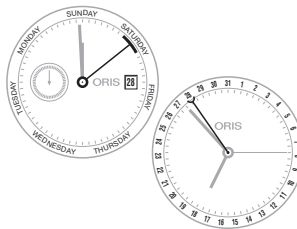
位置7 日付表示

### ポインターカレンダー

○1938年のポインターカレンダー付ムーブメントの発表はオリスの歴史の中でも画期的なことでした。オリスポインターは日付だけでな

く曜日をダイヤル上の専用スケールにて表示します。発表以来このオリスの代表的ムーブメントは、様々なモデルに搭載されています。もちろん、ムーブメントは最新技術の進歩に伴い、初期のものから何度も改良されています。

▶リューズ操作、時刻と日付のセットはチャプター1を参照して下さい。



### アラーム機能付自動巻き時計

○オリスのアラーム機能付手巻腕時計が初めて発売されたのは1988年のことでした。2008年にはサウンドスプリングによる特別なアラーム音を特徴とする自動巻ムーブメントのアラームウォッチが発売されました。この製品は1949年に開発されたオリス8日巻きアラーム置時計からの長い伝統を受け継いだものです。

▶リューズA:ゼンマイ巻上げ、時刻と日付のセットはチャプター1を参照して下さい。

▶リューズBを1の位置で時計回りに回し、必要であれば(日に何度も使用したり、時計を再始動したりする場合など)リューズを12回ほど回転させアラームムーブメントをしっかりと巻上げて下さい。

○アラーム機能付自動巻時計の通常の使用において、ムーブメントとアラームスプリングは常に巻かれた状態になります。

▶リューズBを2の位置まで引き、反時計回りに回し、希望のアラーム時刻をセットします。

○このリューズ位置で、アラーム機能はオンの状態になり、12時間以内にセットした時刻になるとアラームが鳴ります。

▶リューズBを1の位置に押し戻して下さい。  
○アラーム機能がオフの状態になります。

リューズA. 1. ムーブメントゼンマイ巻上げ位置

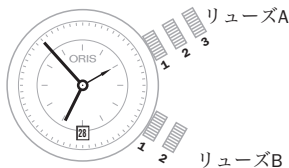
リューズA. 2. 日付セット位置

リューズA. 3. 時刻セット位置

リューズB. 1. アラームゼンマイ巻上げ位置、アラームオフ状態



リューズB. アラームセット位置、アラームオン状態



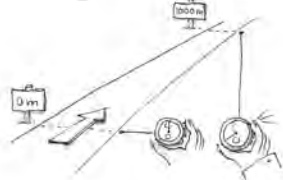
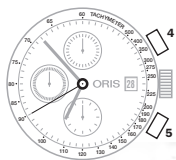
### タキメーター スピードを計る

●クロノグラフモデルのベゼルリングやダイヤル上にあるタキメーターは、スピードを計る際使用します。(例えば1km (もしくは1マイル) の距離を車で移動する場合など)

- ▶回転式リングにタキメーターが搭載されている場合、タキメーターの60を12時に合わせます。乗物がスタート地点を過ぎたらすぐ、プッシュボタン4を押してクロノグラフ機能をスタートします。
- ▶乗物がゴール地点を過ぎたらすぐ、再度プッシュボタン4を押します。
- ▶タキメーター上でクロノグラフ針が指す数字が、平均時速 (km (マイル)) です。
- 下記の例では、測定距離を40秒

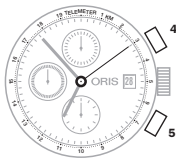
で走る乗物は、平均時速90km(90マイル)となります。

- 平均時速が60km(60マイル)以下の場合には計測ができません。
- ▶プッシュボタン5を押し、針をゼロに戻して下さい。



### テレメーター 距離を測る

- クロノグラフモデルのベゼルやダイヤル上にあるテレメーターは、光と音により (雷の光と雷鳴など) 距離を計る際使用します。テレメーターの目盛は音速に基づいています。(20°Cの空中で秒速343m)
- ▶回転リングテレメーターの場合、目盛の0を12時位置に合わせます。



- ▶光が見えたらすぐ、プッシュボタン4を押してクロノグラフ機能をスタートします。
- ▶その音が聞こえたらすぐ再度プッシュボタン4を押します。
- 上記の例では、雷はまだ3 km 離れた距離にあるということになります。

### ダイバーズウォッチ用60分 目盛付回転ベゼル

- すべてのオリスダイバーズウォッチの回転ベゼルの反時計回りでのみ調節ができます。これは、不意にベゼルが回転し設定や計測した時間が変わってしまうのを避ける為であり、ダイバーが適切に減圧する時間を確認できるようにします。
- ダイビングウォッチの回転ベゼルは、駐車時間、調理時間、ゲーム時間など、色々な用途でタイマーとして活用することもできます。

### 分計測のための回転ベゼルの使用方法:

- ▶回転ベゼルのマーカーを現在時刻を表示している分針に合わせます。
- 経過時間または予め設定した終了時間をベゼルから読み取ることができます。



- 上記の例では、計測をスタートしてから33分が経過していることになります。

### ヘリウムバルブ

- ヘリウムバルブ付時計は、ダイビングベルを使い潜水するダイバーやその他濃縮ヘリウムがある空間での使用に向けたものです。不活性ヘリウムガスはもともと小さい微分子の一つである為、時計内部にまで入ってしまう恐れがあります。一度ケース内にガスが入ってしまうと、特別なバルブ (ヘリウムバルブ) を使わない限りすぐ

に取り除くことができません。水中での上昇後、このバルブを開くことによって時計ガラスに内側からの過剰圧力がかかるのを防止できます。オリスのダイバーズウォッチではポイントで色をつけているリューズがヘリウムバルブです。

- ▶ダイビングの前に、ヘリウムバルブリューズを時計回りにいっばいに回しバルブを閉じます。

- ▶ダイビングステーションを離れる前に、ヘリウムバルブリューズを反時計回りに、リューズが開くまで回します。

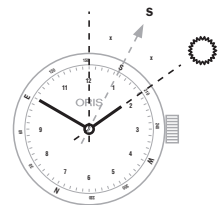
- バルブが開いたままになっていたとしても、時計は通常使用の防水性を持っています。しかしダイビングの際は、バルブは上記に述べたように閉じた状態でなくてはなりません。

### 時計をコンパスとして使用する

- アナログの時分表示の時計は太陽の位置を時針に合わせると、コンパスとして使用することができます。ただし、太陽の位置がはっきりと確認でき、また時計が正確な時刻を表示していなくてはなりません。

- 目盛付ベゼルが付いている場合は、二等分線 (中心点) を知ることもできます。

- ▶手首から時計をはずし、時針が太陽の位置を指すように時計を向けます。
- ▶太陽に向けた時針と時計の12時位置の間の二等分線が南を示します。
- ▶南が分かると、その他の方角が推定できます。



- コンパス用目盛が付いた回転ベゼルの場合は、南だけでなくその他方角をより簡単に確認することができます。このような時計の場合は下記操作をして下さい:

- ▶手首から時計をはずして時針を太陽に向け12時位置との中間線で南を確認します。
- ▶そしてコンパスベゼルの南をその方向に合わせることで、全ての方角を知ることができます。

- レザー、ラバー、メタルなどストラップの使用方法は“テクニカルインフォメーションと商品概要”チャプターを参照して下さい。

### レザーストラップ付時計

- ▶ 着脱時、誤って地面に落下することのないようベルトを締める際はテーブルの上で行うようにして下さい。

- フォールディングバックル付ストラップは着用し易く、セキュリティ面でも長けています。また操作を誤ってしまっても、バックルがホールドしてくれるので地面に落下させずに済みます。

- ▶ 手首から時計をはずして下さい。
- ▶ ベルト穴を使ってストラップを手首のサイズに調節します。
- ▶ ストラップを調節したら、はずれないようバックルをしっかり正しいベルト穴の位置に押し込んで下さい。

- ▶ 古いフォールディングバックルは調節しにくい場合があります。お困りの際は、オリス正規販売店へお問合せ下さい。

- 無段階調節フォールディングバックル付ストラップ：

これはオリスが開発・特許を持つ新しいタイプのフォールディングバックルで、飛行機のシートベルトの原理がベースとなっています。ストラップの長さが好きなように調節できます：



図1

- ▶ 手首から時計をはずし、バックルを開いた状態で柔らかい場所に置いて下さい。
- ▶ バックルを持ち、折り込んであるベルトを先端側と時計側をあわせて指で挟み、バックル側に押し出します。
- ▶ ベルトの先端を引いてベルトを短くするか、時計側のベルトを引いてサイズを長くします。(図1)
- ▶ カチっという音が聞こえるまで留め金を押しして下さい。
- 留め金が正しく押し込まれていないと、フォールディングバックルは縮まりません。

### ラバーストラップ付時計

- オリスのラバーストラップはすべてフォールディングバックル付です。

#### ストラップの長さ調節の為カッターするには：

- ▶ お客様の手首のサイズにぴったり合うよう、オリス正規販売店にご相談下さい。

- ストラップのバックルに調節機能がある場合、その幅でご自分で長さ調節をしていただけます。(“フォールディングバックルの微調整”参照)

#### フォールディングバックルで片側に穴が開いているストラップの場合：

- ▶ 手首から時計をはずして下さい。
- ▶ ベルト穴を使って、お好きなサイズに調節して下さい。
- ▶ ストラップを調節したら、はずれないようバックルをしっかり正しいベルト穴の位置に押し込んで下さい。

- ダイビングスーツ用のエクステンションリンク付フォールディングバックルは微調整ができません。

### メタルプレスレット付時計

- ▶ メタルプレスレットの長さ調節はコマを外したり足したりする必要があるので、オリス正規販売店にて行います。

- プレスレットのバックルに微調整機能がある場合、ある程度の微調整であればお客様ご自身で行えます。(“フォールディングバックルのファインアジャストメント”を参照)

#### フォールディングバックルの微調整

- 微調整機能付バックルのメタルプレスやラバーストラップは、下記操作により限られた範囲で調節することが可能です：

- ダイビングスーツ用エクステンションリンク付ラバーバックルは微調整ができません。

- ▶ バネ棒で目を怪我しないよう、ゴーグルを着用して下さい。
- ▶ フォールディングバックルを開け、時計とストラップをリューズが上になるようにして厚紙などの上に置きます。
- ▶ 爪楊枝等を使い、ファインアジャストメントのバネ棒をストラップのバックルの中に押し入れて下さい。(図1)

- ▶ 慎重にストラップを外して下さい。バネ棒が飛び出すことがありますのでご注意ください。
- ▶ 調整したい穴の下側にバネ棒の先を入れ、バックルの上側の穴の位置にバネ棒の先を合わせます。(図2)
- ▶ 薄いドライバー等で上側のバネ棒の先端を押さえ、バックル内に押し込み、バックルの穴にバネ棒の先端がカチッとハマるのを確認して下さい。(図3)
- ▶ ストラップがバックルにしっかりと付いていることを確認して下さい。



図1



図2



図3

精度

クロノメーター



機械式時計の精度は使用しているムーブメント、ユーザーの使い方、気温の変動などにより異なります。

オリスの時計はすべて出荷前に工場で検査と調節がされており、日差-5秒~+20秒が許容範囲です。

クロノメーターはこの日差よりさらに厳しくテストと調節がされま

す。（“クロノメーター”参照）

クロノメーターとは、スイスの公的機関スイスクロノメーター検定協会（COSC）が実施する厳格な精度テストにパスしたことを証明されたムーブメントのみに与える認定のことです。精度基準としてのクロノメーター規格（NIHS 95-11/ISO 3159）として定められています。

もしお持ちの時計がこれらの日差範囲内で動いていない場合は、オリス正規販売店かオリスサービスセンターで調整することができます。保証期間内であれば、このサービスは無料です。

COSCでのクロノメーターテストは15日間に渡って行われ、すべてのテストは湿度24%の中で行われます。24時間毎に精度誤差が計測され、その際にムーブメントの巻上げと初期化がなされます。テスト10日目にはクロノグラフなど時計の複雑機構を作動させ、ムーブメントの操作精度を測定します。ムーブメントの精度は異なる5つの姿勢、3つの気温でそれぞれ測定されます。

この検査に合格すると、その精度とクロノメーター認定ムーブメントであることを証明する公式証明書が与えられます。認定されたすべてのムーブメントは刻印ナンバーとCOSC認定ナンバーにより識別されます。

|        |     |    |    |     |    |     |    |       |    |      |      |     |     |     |     |     |
|--------|-----|----|----|-----|----|-----|----|-------|----|------|------|-----|-----|-----|-----|-----|
| テスト日   | 0   | 1  | 2  | 3   | 4  | 5   | 6  | 7     | 8  | 9    | 10   | 11  | 12  | 13  | 14  | 15  |
| 測定姿勢   | 6時上 |    |    | 3時上 |    | 9時上 |    | 文字盤側上 |    | 裏蓋側上 |      |     | 6時上 |     |     |     |
| 温度 °C  | 23  | 23 | 23 | 23  | 23 | 23  | 23 | 23    | 23 | 23   | 23   | 8   | 23  | 38  | 23  | 23  |
| R(s/d) |     | R1 | R2 | R3  | R4 | R5  | R6 | R7    | R8 | R9   | R10* | R11 | R12 | R13 | R14 | R15 |

\*複雑機構はすべて作動させる

| テスト基準<br>単位は全て、秒(s)/1日(d)              | 略表   | ムーブ直径 > 20 mm | ムーブ直径 < 20 mm |
|--|------|---------------|---------------|
| 平均日差<br>(異なる5姿勢での日差の平均)                | Mmoy | -4 ~ +6       | -5 ~ +8       |
| 平均日較差<br>(各姿勢ごとの日差の差（日較差）の平均)          | Vmoy | 2 以内          | 3.4 以内        |
| 最大日較差<br>(同姿勢の日較差の最大値)                 | Vmax | 5 以内          | 7 以内          |
| 垂直・水平の姿勢差<br>(水平姿勢での平均日差と垂直姿勢での平均日差の差) | D    | -6 ~ +8       | -8 ~ +10      |
| 最大姿勢偏差<br>(各姿勢での平均日差と日差との差の最大値)        | P    | 10 以内         | 15 以内         |
| 温度係数<br>(温度差1 °C毎の日差の差異)               | C    | ±0.6          | ±0.7          |
| 復元差<br>(15日目の日差から最初の2日の日差の平均値を差し引いた値)  | R    | ±5            | ±6            |

## 防水性

- オリスはすべての時計が仕様に沿った数値の防水性を持っているか検査を行っています。オリスでは全モデルが3気圧または30m以上の防水性を持ちます。各モデルの防水性は時計のケースバックもしくはダイヤルに記載されています。
- ▶防水性が10気圧または100m(328フィート)未満の時計は水中での着用はできません。(下記グラフを参照)
- ▶防水性が10気圧(100m)以上のモデルは水中での着用が可能です。

- ▶時間の経過と共に、日々の使用や裏蓋の劣化などが防水性を弱めます。この為、年に1度のオリス正規販売店による防水検査を受けることをお奨めします。
- ▶通常のリューズは常に1の位置に押し込まれている状態にし、時計の防水性が保証されるようにして下さい。
- ▶時計の防水性を保証する為、ねじ込み式もしくはクイックロック式リューズと、ねじ込み式プッシュボタンは常にロックされた状態にして下さい。
- ▶水中では絶対にリューズやボタン操作を行わないで下さい。










## 使用とメンテナンス

- 時計、メタルブレス、ラバーストラップなどは定期的な掃除し、塩水(海水や汗)で濡れてしまった時は歯ブラシと洗剤を薄めたぬるま湯を使い、その後柔らかい布で拭いて下さい。
- 時計やストラップが直接溶剤、洗剤、化粧品、香水などに付かないようにして下さい。ケースやストラップなどが傷む恐れがあります。
- レザーや布製ストラップを油、水、湿気から守って下さい。また、直射日光に晒したままにしないで下さい。































- 時計を強い磁気を持つ機器(ラジオ、冷蔵庫、スピーカーなど)の近くに置かないで下さい。
- 過度な気温の場所(60度以上、-5度以下)はできるだけ避けて下さい。時計は通常、着用者の体温によって過剰な温度の変動から守られています。
- この為、急激な気温変化(サウナなど)を避けて下さい。
- 時計はその他の機械機器同様、定期的なメンテナンスが必要です。メンテナンスの必要性は使用頻度や方法、天候などにより異なります。通常は、4~5年に一度のオーバーホールをお奨めいたします。

オリスウォッチをお買い求めの販売店にお持ちいただくか、オリスサービスセンターにお送り下さい。

- 何か不明な点があれば、お気軽にオリス販売店、オリスサービスセンター、またはオリスHP [www.oris.ch](http://www.oris.ch)にご連絡下さい。

| 気圧<br>(bar) | フィート (メートル)<br>(ft) (m) |  |  |  |  |  |  |  |
|-------------|-------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| 3           | 98.5 (30)               | ✓   | -   | -   | -   | -   | -   |  |
| 5           | 164 (50)                | ✓   | ✓   | ✓   | -   | -   | -   |  |
| 10          | 328 (100)               | ✓   | ✓   | ✓   | ✓   | ✓   | -   | -   |
| 30          | 984 (300)               | ✓   | ✓   | ✓   | ✓   | ✓   | ✓   | ✓   |
| 100         | 3281 (1000)             | ✓   | ✓   | ✓   | ✓   | ✓   | ✓   | ✓   |
| 200         | 6562 (2000)             | ✓   | ✓   | ✓   | ✓   | ✓   | ✓   | ✓   |

シンボル表示

|   |   |  |
|---|---|--|
|  自動巻               |  ルミナスダイヤル                          |  裏スケルトン   |
|  オリス社開発（自動巻）       |  スーパールミノバ付ルミナスインデックス&ルミナスハンズ       |  フレキシブルラグ |
|  手巻                |  スーパールミノバ付ルミナスハンズ                  |  ベルト幅     |
|  ワールドタイマー          |  ダイヤモンド付ダイヤル                       |  ラグ外幅     |
|  クロノメーター           |  ステンレススチール                         |  カーフ（牛革）  |
|  アラーム              |  ステンレススチール&18Kゴールド                 |  ラバー      |
|  第2時刻表示            |  18Kゴールド                           |  サテン      |
|  ねじ込み式セーフティリュース    |  5ミクロンゴールドプレート                     |  クロコダイル   |
|  ねじ込み式セーフティプッシュボタン |  ダイヤモンド                            |  XX 気圧防水  |
|  クイックロック式リュース      |  DLC(Diamond like carbon)コーティング    |  |
|  ヘリウムバルブ           |  PVD加工(Physical Vapour Deposition) |  |
|  サファイヤクリスタル        |  チタニウム                             |  |
|  ミネラルガラス           |  ミネラルガラス付(内面)                      |  |
|  プレキシガラス           |   |  |
|  無反射コーティング(内面)     |   |  |

ケース・ストラップのメタル素材

- オリスが使用している316Lステンレススチールは頑強で耐久性に優れ、ニッケルアレルギーを防ぐための厳しい皮膚科学的基準を満たしています。多くの国や地域ではニッケルに関して、皮膚と直接かつ長時間接触する製品は、遊離量が0.5µg/cm<sup>2</sup>/週を超えてはならないというニッケル使用制限指令が施行されています。合金のニッケル含有量が重大な要因となっているのではなく、ニッケルが肌に放出される割合が大きな問題となります。316Lステンレススチールは完全にニッケルフリーというわけではありませんが、ニッケルを放出しない素材です。

- オリスが使用しているグレード2チタニウムはインプラントなどにも使用されており、抵抗性、引長強度に優れた素材です。チタニウムの質量はスチールの45%と軽く、耐食性に優れ、肌に優しく触感が温かいのが特徴です。

PVDコーティング

- 物理蒸着法（PVD：Physical Vapour Deposition）は金属薄膜を形成する蒸着法の一つで、真空状態にし

た空間内で物質を気化させ、近傍に置いた基板上に堆積させて薄膜を形成する蒸着法です。非常に純度の高い金属皮膜の形成が可能で、不活性ガスを混合しイオン化した金属蒸気を発生させて成膜します。時計表面のコーティングにも採用しているこの手法は、最新の地球に優しいコーティング技術です。

- PVDコーティングは粘着性、硬度、耐摩耗性に優れているのが特徴で、表面が非常に滑らかなので時計の部品をコーティングするのに最適です。PVDコーティングは単層・多層の両方が可能で段階的に重ねることができ、層の厚さは1~5ミクロン、場合によってはわずか0.5ミクロンの厚みや15ミクロン以上などでのコーティングも可能です。使用される初期物質や不活性ガスによっては、様々なPVDコーティングが応用できます。基本的にPVDコーティングによる皮膜は窒化物、炭化物、酸化物、カーボン（ダイヤモンドライクカーボン）の主要な4つのグループに別できます。

DLC（ダイヤモンドライクカーボン）コーティング

- DLCコーティングの工程はPVDコーティングの工程にダイヤモンドライクカーボンを用いたものです。この耐久性・耐摩耗性に優れた黒色のコーティングは、基本的に黒鉛で皮膜した直径数ナノメートルのダイヤモンドによって形成されています。このような手法を一般的にダイヤモンドライクカーボン（DLC）と言い、この技術によりDLCの皮膜は非常に硬い表面を形成します。超硬質ステンレススチールよりも更に硬度と耐摩耗性を増し、耐食性に大変優れ、肌に優しいのも特徴です。

サファイヤクリスタル

- オリスのほとんどのモデルは風防にサファイヤクリスタルを使用しています。

- モース硬度9のサファイヤクリスタルは、クリスタルの中で最も硬い素材です。人工サファイヤでできており、非常に耐傷性に優れています。サファイヤクリスタルよりも固いものはモース硬度10のダイヤモンドだけです。加えてサファイヤクリスタルはミネラルガ

ラスに比べ耐衝撃性にもとても優れています。

○ダイヤルの視認性を高めるために、オリスで使用しているサファイヤクリスタルのほとんどは、内面に無反射コーティングを施しています。

○更に視認性を高めるため、いくつかのオリスウォッチのサファイヤクリスタルには両面に無反射コーティングを施しています。着用時、このコーティングされた外層が傷つく場合があります。これは通常の摩擦ですので保証の対象にはなりません。

### ミネラルガラス



○ミネラルガラスは汚れがつきにくく視認性にも優れていますが、スクラッチプルーフではありません。そのためオリスでは裏ブタにのみ、このガラスを使用しています。

### プレキシガラス



○プレキシガラスまたはアクリルガラスは何度も試行を繰り返し生み出された素材です。視認性、耐衝

撃性に優れ、手触りに暖かみがあります。サファイヤクリスタルに比べると傷つきやすいガラスですが、傷がついた場合は研磨機で磨くことができます。

○オリスでは主にロングセラーシリーズのビッグクラウンモデルにプレキシガラスを使用しています。これはオリジナルモデルに使用されていたことに由来するものです。

### 発光性ダイヤルと針



○オリスではほぼ全モデルの針とダイヤル上インデックスに発光塗料のスーパーミノバを塗布しています。この発光塗料は太陽光や人工光など外部の光を備蓄して発光するもので、放射性的物質は一切含まれません。またこの発光塗料には備蓄性があるので、必要に応じて光を蓄えます。

○発光強度は暗所に入っただけで段階が最も強く、最初の60分で急速に弱まります。しかし最初の60分以降は光強度の減少ははるかに小さくなり、その後5~6時間は暗闇の中でも時間をはっきりと読み取ることが可能です。

▶発光強度を最大限有効にするためには、時計に光（太陽光や人工光など）が当たるのを遮った状態にし続けること（衣服の袖で覆い続けるなど）は避けて下さい。



○純正のオリスストラップには裏面とバックルにマークが記されています。

○メタルプレスレットは316Lステンレススチールまたはグレード2チタニウム製です。（“ケース・ストラップのメタル素材”参照）

○オリス製品に使用している革は全て、保護対象とされていないクロコダイル、アリゲーター、オーストリッチ、ステイングレイ、リザード、カーフなどの本革です。これはCITES（ワシントン条約：絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約）に則っています。

○オリスのラバーストラップは丈夫で耐久性、耐水性に優れています。使用しているゴム混合物は毒性がなく、潜在的アレルギー成分を含みません。

### 月齢表

|     | 2017         | 2018           | 2019           | 2020           | 2021         | 2022           | 2023           | 2024           |
|-----|--------------|----------------|----------------|----------------|--------------|----------------|----------------|----------------|
| 1月  | ○ 12<br>● 28 | ○ 2/31<br>● 17 | ● 6<br>○ 21    | ○ 10<br>● 24   | ● 13<br>○ 28 | ● 2<br>○ 17    | ○ 6<br>● 21    | ● 11<br>○ 25   |
| 2月  | ○ 11<br>● 26 | ● 15           | ● 4<br>○ 19    | ○ 9<br>● 23    | ● 11<br>○ 27 | ● 1<br>○ 16    | ○ 5<br>● 20    | ● 9<br>○ 24    |
| 3月  | ○ 12<br>● 28 | ○ 2/31<br>● 17 | ● 6<br>○ 21    | ○ 9<br>● 24    | ● 13<br>○ 28 | ● 2<br>○ 18    | ○ 7<br>● 21    | ● 10<br>○ 25   |
| 4月  | ○ 11<br>● 26 | ● 16<br>○ 30   | ● 5<br>○ 19    | ○ 8<br>● 23    | ● 12<br>○ 27 | ● 1/30<br>○ 16 | ○ 6<br>● 20    | ● 8<br>○ 23    |
| 5月  | ○ 10<br>● 25 | ● 15<br>○ 29   | ● 4<br>○ 18    | ○ 7<br>● 22    | ● 11<br>○ 26 | ○ 16<br>● 30   | ○ 5<br>● 19    | ● 8<br>○ 23    |
| 6月  | ○ 9<br>● 24  | ● 13<br>○ 28   | ● 3<br>○ 17    | ○ 5<br>● 21    | ● 10<br>○ 24 | ○ 14<br>● 29   | ○ 4<br>● 18    | ● 6<br>○ 22    |
| 7月  | ○ 9<br>● 23  | ● 13<br>○ 27   | ● 2<br>○ 16    | ○ 5<br>● 20    | ● 10<br>○ 24 | ○ 13<br>● 28   | ○ 3<br>● 17    | ● 5<br>○ 21    |
| 8月  | ○ 7<br>● 21  | ● 11<br>○ 26   | ● 1/30<br>○ 15 | ○ 3<br>● 19    | ● 8<br>○ 22  | ○ 12<br>● 27   | ○ 1/31<br>● 16 | ● 4<br>○ 19    |
| 9月  | ○ 6<br>● 20  | ● 9<br>○ 25    | ○ 14<br>● 28   | ○ 2<br>● 17    | ● 7<br>○ 20  | ○ 10<br>● 25   | ● 15<br>○ 29   | ● 3<br>○ 18    |
| 10月 | ○ 5<br>● 19  | ● 9<br>○ 24    | ○ 13<br>● 28   | ○ 1/31<br>● 16 | ● 6<br>○ 20  | ○ 9<br>● 25    | ● 14<br>○ 28   | ● 2<br>○ 17    |
| 11月 | ○ 4<br>● 18  | ● 7<br>○ 23    | ○ 12<br>● 26   | ● 15<br>○ 30   | ● 4<br>○ 19  | ○ 8<br>● 23    | ● 13<br>○ 27   | ● 1<br>○ 15    |
| 12月 | ○ 3<br>● 18  | ● 7<br>○ 22    | ○ 12<br>● 26   | ● 14<br>○ 30   | ● 4<br>○ 19  | ○ 8<br>● 23    | ● 12<br>○ 27   | ● 1/30<br>○ 15 |

● 新月

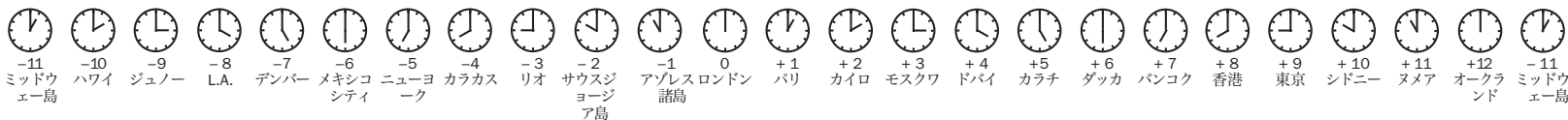
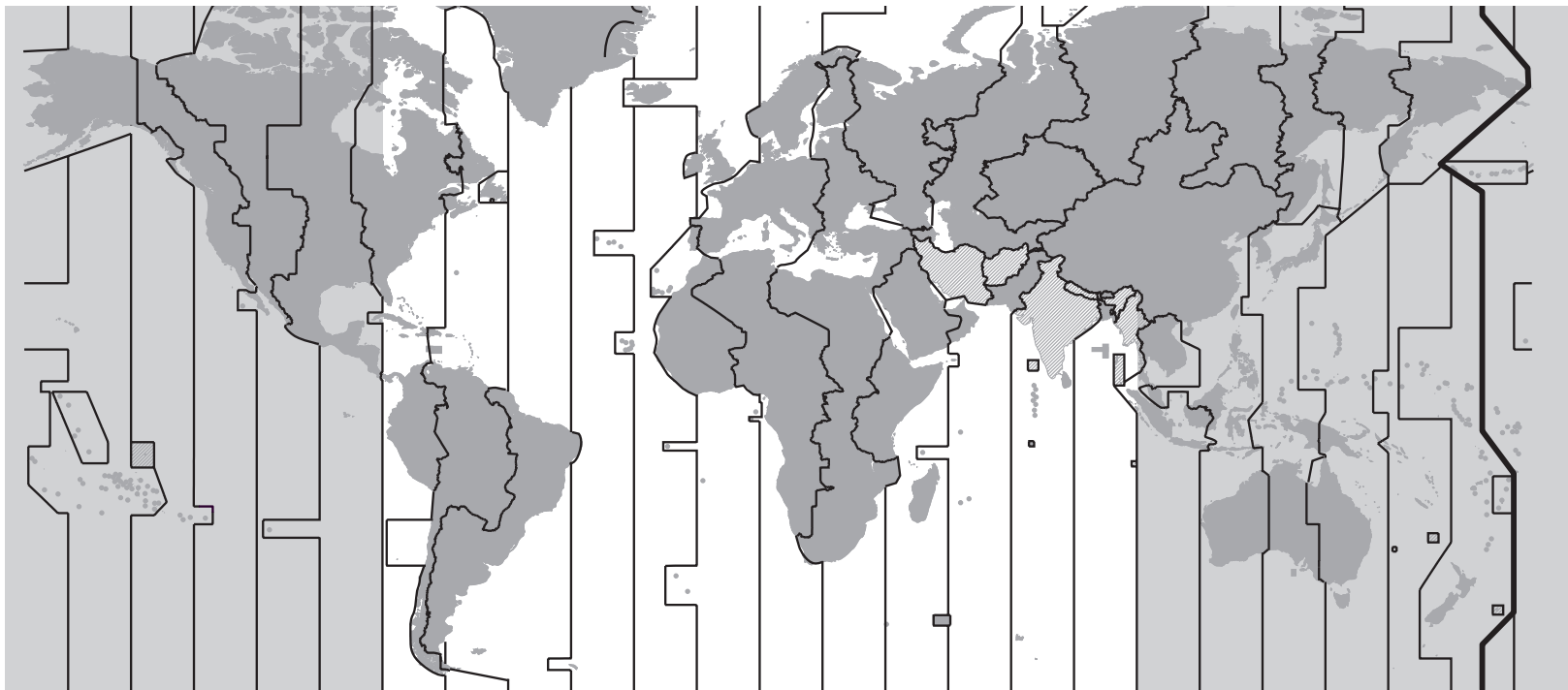
○ 満月

**タイムゾーン**

●現在UTC (Universal Coordinated Time: 協定世界時) が世界共通の標準時とされています。かつてはグリニッジ標準時 (GMT) をベースとしていた世界標準時に代わるものです。UTCとGMTはどちらも経度0度と定められているイギリス・ロンドンのグリニッジ展望台での時刻を基準にしています。ほとんどの地域では、各タイムゾーンの時刻はその場所の経度によって標準時に加算、減算され1時間単位で算出されます。イラン、アフガニスタン、インド、オーストラリアの一部の地域など数ヶ国では、UTC + 3½, 4½, 5½, 9½ 時間の時刻を採用している場合があります。

**ムーブメント**

●詳細な仕様については、オリス公式サイト [www.oris.ch](http://www.oris.ch) をご覧下さい。



## 保証書

正しく記載された保証書が添付され下記諸条件を満たしている場合、オリスは時計をお買い上げの日から2年間無償保証サービスを行います：

本保証は、製品における材質の欠陥や製造時の不具合、またお手元に届いた際にすでに生じていた不具合を保証するものです。本保証は、保証書に品番・購入日等の必要事項が完全に正確に記入され、オリス正規販売店によって捺印され、記載されたシリアルナンバーが時計のものと一致する場合にのみ適用されます。

保証期間中、有効な保証書の提示がある場合、無償にて修理をいたします。また、オリスが修理は不適切と判断した場合は、保証期間内に限り同一モデルもしくは類似モデルと交換いたします。

## 保証対象とならないもの：

- 通常の使用による磨耗や老化。  
(外装部分の傷や変色、レーザー、サテン、ラバーなど素材の変質など)
- オリス取扱説明書の使用方法に適合なかったために生じた故障。
- 不適切及び正常でない使用、落下等による機械故障、又は不注意、放置、事故、衝突による表面の凹み、潰れ、クリスタルの砕け等の破損。
- オリス社が認可していないサービスセンターでの不適切な修理による損傷。
- オリス社およびオリスサービスセンター以外による改造が行われた時計。
- 販売店などによる追加保証。
- 時計の停止、不正確さから生じたあらゆる間接的損害または二次損傷。

本保証書はお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

こちらに記述されている保証サービスや推奨しているメンテナンスは、オリス正規販売店もしくは各国オリス総代理店で行ってください。販売店リストは発行日現在の情報です。最新情報はオリスホームページ ([www.oris.ch](http://www.oris.ch)) でご確認ください。



## 使用上の注意事項

- 1 時計本体やバンドは肌着類と同様直接肌に接していますので汚れたままのご使用は皮膚がかぶれる場合があります。又、アレルギー体質や皮膚の弱い方も同様のケースが考えられますので、皮膚に異常を感じた時はご使用をお止めいただき、専門医にご相談下さい。
- 2 皮革バンド類は材質の特性上、水分に濡れると耐久性に影響がでる場合があります。完全防水時計を皮革バンド付で水中で使用される場合は脱色、接着はがれなどの原因になりますので、あらかじめ他の材質のバンド（金属製またはゴム製）にお取り替えの上ご使用下さい。
- 3 ケースやガラスについた汚れや水分は柔らかい布で拭き、常に清潔にしてご使用下さい。
- 4 日常生活用強化防水時計の場合、海水に浸した時や多量の汗をかいた後は、真水でよく洗いよく拭き取ってからご使用或いは保管して下さい。
- 5 時計本体やベルトの汚れがワイシャツ等の袖口を汚す場合があります。

すので汗やゴミ等の汚れについても注意し、常に清潔にして下さい。

- 6 水分やホコリのついたままプッシュボタンの操作をしないで下さい。時計内部に水分やホコリが入り損傷をきたす場合があります。
- 7 時計内部に水が入ったり、ガラス内面にクモリが発生し長時間消えないときはそのまま放置せず、お買い上げ店または、弊社サービスセンターへ修理、点検を依頼して下さい。
- 8 時計内部に海水が入った場合は、箱やビニール袋等に入れて早急に修理依頼をして下さい。部品（ガラス、ボタンなど）が外れてしまい紛失してしまう危険性があります。
- 9 バンドの中留め着脱の際に爪や指先を傷つける恐れがありますのでご注意ください（特に三つ折バックルの場合）。
- 10 携帯時のバンドサイズは多少余裕を持たせ、通気性を浴してご使用下さい（携帯時のバンドの内側に、指が一本軽く入る程度）。
- 11 金属バンドは、薄い石鹸水と歯ブラシで部分洗浄をして下さい

(ただし時計本体に水分がかからないように保護して下さい)。



## 使用上の禁止事項

- 1 日常生活防水の時計の場合には水中でのご使用や水に触れるご使用は避けて下さい。
- 2 床面に落下する等強い衝撃は故障の原因になりますので、激しいショックは与えないで下さい。
- 3 直射日光にさらしたり高温になる所に長い時間放置しないで下さい（故障の原因になります）。又、寒い所に長く放置しますと機械に損傷をきたす恐れがあります。
- 4 磁石には近づけないで下さい。携帯電話のイヤホン部、磁気健康器具、冷蔵庫のマグネットドア、バッグの止め具などは磁石が使用されています。これらの器具に近づけると磁気により時刻が狂います。この場合は直ちに磁石から離して時刻修正をしてください。
- 5 化学薬品やガス類の中でのご使用はお避け下さい。シンナー・ベンジン等やそれらを含有するもの（ガソリン・マニキュア・クレゾール・トイレ用洗剤・接着剤など）が時計に付着しますと、時計やベルトが変色・溶解・ひび割れ等を起こす場合があります。



ます。体温計などに使用されている水銀や薬品類にも十分ご注意ください。これらの化学物質に触れたりしますと、時計やバンド等が変色することがあります。

6 時計機能調整の為プッシュボタン等を操作する際は先端の鋭利なものでの操作は避けて下さい。指先や時計本体を傷つける恐れがあります。

7 サウナや海水浴場など時計が高温になる場所では火傷の恐れがあるため絶対に着用しないで下さい。

8 サウナや海水浴場など時計が高温になる場所では火傷の恐れがあるため絶対に着用しないで下さい。

**⚠ 携帯時の注意事項**

1 ウレタンバンドは、持物の染料や汚れが付着し、除去できなくなる場合があります。色落ちするものと接触する場合は十分ご注意ください。

2 幼児を抱くようなときなどは、時計が幼児の顔等を傷つけたり衣服に損傷を与えないよう十分ご注意ください。

3 激しい運動や作業などを行うときは、時計がはずれたり第三者に当たったりしてご自身や第三者にけがをさせぬよう十分ご注意ください。

**⚠ 警告**  
この表示は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

**⚠ 絵表示について**  
この記号は、気をつけていただきたい「注意喚起」内容です。

🚫 この記号は、してはいけない「禁止」内容です。

🛑 この記号は、必ず実行していただく「強制」内容です。

**オーナー証明書**

○このリストは情報提供のみを目的とし、保証の契約条件となるものではありません。

第1所有者  
 日付  
 名前/住所  
 備考

第2所有者  
 日付  
 名前/住所  
 備考

第3所有者  
 日付  
 名前/住所  
 備考

---

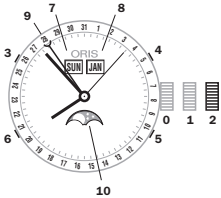
Product Manual Supplement.

Movement 915.

## オリス コンプリケーション (ムーブメント 915)

- ▶午後 3時から午前 1時の間は日付および曜日の早送り調整を行わないでください。この間は日付変更用歯車が作動しているため、調整を行うとムーブメントを損傷するおそれがあります。
- ▶ねじ込み式もしくはクイックロック式リユーズをチャプター 1の指示に従ってロック解除して下さい。
- ▶リユーズを 2 の位置まで引いて下さい。
  - ▶12 時を過ぎて日付が変わるまでリユーズを回して針を進めます。針を 3 時 15分まで進めます。
- ▶付属の専用ツールまたは爪楊枝等でプッシュボタン 3を押して希望の曜日にセットします。
- ▶プッシュボタン 4を押して月をセットします。
- ▶プッシュボタン 5を押して日付をセットします。
- ▶プッシュボタン 6を押してムーンフェイズをセットします。
- 月は 24 時間を 1 周期として少しずつ動いているので、月のセットを行うのは新月または満月のときが最適です。
- ▶リユーズを使用して現在の時刻をセットします。午後の時刻にセットする場合は、針をもう 1 周回します。

- このリユーズの位置にすると秒針が停止します。リユーズを 1の位置に押し戻すと時報に合わせた時刻で使用開始できます。
- ▶リユーズを 1 の位置に押し戻して下さい。
- ▶ねじ込み式もしくはクイックロック式リユーズをチャプター 1の指示に従ってロックして下さい。



- 位置 0 リユーズロック状態 (ねじ込み式もしくはクイックロック式リユーズの場合)
- 位置 1 ゼンマイ巻上げ位置
- 位置 2 時刻とムーンフェイズセット位置
- 3 曜日セットプッシュボタン
- 4 月セットプッシュボタン
- 5 日付セットプッシュボタン
- 6 ムーンフェイズセットプッシュボタン
- 7 曜日表示
- 8 月表示
- 9 日付表示
- 10 ムーンフェイズ表示

---

Product Manual Supplement.

Oris Aquis Depth Gauge.

## ガイドライン

Oris Aquis Depth Gauge (オリス アクイス デプスゲージ) は、オリス独自の品質基準を満たすように個別に検査され、出荷されています。物理的な損傷、不適切な取扱、その他偶発的な原因により、水深表示機能が適切に作動しない場合があります。このガイドラインは、オリス アクイス デプスゲージをダイビングの最強のパートナーとしてご愛用いただくためのものです。

## 水深計の精度

以下のような要因が、オリス アクイス デプスゲージの機能に作用して、水深表示に若干の影響がでることがあります。

- ▶ 気温、天候、海拔による気圧の変化
- ▶ 気温差、水温差。特にウォッチと水温度の差
- ▶ 海水の塩分濃度

## ダイビング前の安全に関する注意事項

- ▶ 計測チャンネル内に水が残っていないか（濃いグレーの染みが見られないかどうか）点検します。残っている場合は、「クリーニングキットの使い方」の説明に従って、取り除きます。
- ▶ ダイビング前、オリス アクイス デプスゲージが気温と同じ温度に保たれていること、つまり強い太陽光その他の熱源、または冷たいものに晒されていないか確認します。

- ▶ オリス アクイス デプスゲージは、あくまでも機械式水深計であり、通常のダイビング器具の補助的な役割を果たすものです。

以上の注意事項を守らなかった場合に関しては、オリスでは一切の責任を負いかねます。オリスの製品には国際的な保証が適用されません。詳しくは、オリス ウォッチに付属の、あるいは [www.oris.ch](http://www.oris.ch) でご覧いただけるオリス製品取扱説明書をご確認ください。

## クリーニングキットの内容一覧

オリス アクイス デプスゲージ用のクリーニングキットには、以下のツールが入っています。

- ▶ 1 x 5 ml 容量のシリンジ ①
- ▶ 5 x 管 ②
- ▶ 5 x チューブ ③ (管に取り付ける)



## クリーニングキットの使い方

このキットは、計測チャンネルのクリーニングと残った水分を取り除くためのものです。作業手順：

1. サファイアガラスの開口部からチャンネルにチューブを横方向に通し、チャンネルの端に届くまで押し込みます (図 A)。

2. シリンジに水を充填します。  
注：強力な洗浄剤または溶剤は絶対に使用しないでください。サファイアガラスのガスケットが損傷する場合があります。
3. シリンジを管に差し込み、水を注入してチャンネルを洗浄します (図 B)。
4. 必要に応じて、2 と 3 の手順を繰り返します。
5. シリンジとチューブをチャンネルからゆっくりと引き抜きながら、同時にシリンジのピストンを引いてチャンネル内の水を抜き取ります。
6. チャンネル内に残った水を抜く場合は、1 と 5 の手順のみを行います。



PRODUCT MANUAL SUPPLEMENT

## ORIS BIG CROWN PROPILOT ALTIMETER

## ガイドライン

Oris Big Crown ProPilot Altimeter (オリス ビッグ クラウン プロパイロット アルティメーター) は、オリス独自の品質基準を満たすように個別に検査され、出荷されています。高度および表示機能は、物理的な損傷、不適切な取扱い、その他偶発的な原因により、適切に作動しない場合があります。このガイドラインは、オリス ビッグ クラウン プロパイロット アルティメーターを最強のパートナーとしてご愛用いただくためのものです。

### 高度計の精度

次のパラメータは、機能的原理、およびオリス ビッグ クラウン プロパイロット アルティメーターの気圧計機能と相互に作用します。また、高度表示の精度にわずかに影響を及ぼす場合があります。

- ▶ 気温による大気圧の変化
- ▶ 高度を読み取る場所での温度勾配による大気圧の変化
- ▶ 高気圧/低気圧などの天候の変化
- ▶ 一般的な気象力学

### 使用前の安全に関する注意事項

- ▶ 使用前に、オリス ビッグ クラウン プロパイロット アルティメーターが気温と同じ温度に保たれていること、つまり、強い太陽光やその他の熱源、または冷たいものに晒されていないことを確認します。

▶ «オリス ビッグ クラウン プロパイロット アルティメーターの使用法» セクションで説明するように、4 時位置にあるリユーズが緩められ、位置 1 にあることを確認します。リユーズの軸の部分の赤いリングが、はっきり見えるようにしてください。リユーズがケースにねじ込まれていると、高度計が機能しません。

▶ 4 時位置のリユーズを緩めたら、ウォッチが水に濡れないようにしてください。4 時位置のリユーズが位置 0 までしっかりとねじ込まれていないときは、ケースが密閉されておらず、防水性がありません。特殊 PTFE 被膜で防止されるのは、ウォッチ内部への水蒸気および湿気の浸入のみです。この被膜には防水性はありません。

▶ ウォッチに汚れが付着しないようにしてください。PTFE 被膜とケースの開口部分が汚れてふさがれ、その結果、ケース内が換気されなくなります。そのため、高度の表示が遅れたり、まったく機能しなくなったりします。

▶ 必ず指先でウォッチを軽くこすってから、正しい高度を読み取ってください。指先でこすると、アネロイドセルと気圧高度計機構が円滑に機能するようになります。

▶ 必ず、高度計を調節してから、「オリス ビッグ クラウン プロパイロット アルティメーターの使用法/高度計の設定」セクションにある手順に従って使用してください。

▶ 環境や天候の変化に合わせて補正するために、高度を示す基準点または特定の基準圧力を使用する場合は必ず、高度計を頻繁に確認し、再調整してください。

▶ 安全上の理由から、オリス ビッグ クラウン プロパイロット アルティメーターは、航空業務または探検において二次計器としてのみ使用し、航空機の搭載計器などの他の高度表示装置と併用してください。

注: 加圧された航空機の客室内では、航空機が実際に飛行している高度より低い高度の環境が作り出されています。民間航空機での飛行中は、電子式と機械式(オリス ビッグ クラウン プロパイロット アルティメーターなど)とを問わず、すべての気圧高度計で客室内の現時点の気圧が表示されます。このような航空機の高度計機器は、気圧と高度を計測するために、機体の外側に気圧を感知する装置を備えています。

以上の注意事項を守らなかった場合に関して、オリスでは一切の責任を負いかねます。オリスの製品には国際的な保証が適用されます。詳しくは、オリス ウォッチに付属の、あるいは [www.oris.ch](http://www.oris.ch) でご覧いただけるオリス製品取扱説明書をご確認ください。

**オリス ビッグ クラウン プロパイロット アルティメーターの使用法**

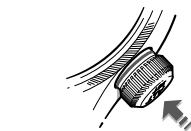
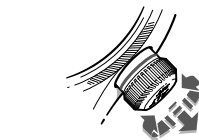
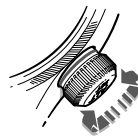
ダイヤルは 3 つのゾーンに分割されており、中央のゾーンは、時間を示す従来のウォッチ ダイヤルです。その周りは、大気圧を示す気圧計で、赤のインジケータで気圧が表示されます。外側のリングには、15'000 フィートまたは 4'500 メートルまでの高度が、黄色のインジケータで表示されます。

#### 1. ニュートラル モード

(リユーズ位置 0): 両方のリユーズがしっかりとねじ込まれていると、ビッグ クラウン プロパイロット アルティメーターは通常の自動巻きウォッチとして機能します。中央のダイヤルと針で時刻と日付が示され(2 時位置のリユーズで調節)、100 メートル/10 パールまでの防水機能付きウォッチとなります。

#### 2. 高度計の起動

(リユーズ位置 1): 4 時位置のリユーズを位置 1 まで緩めて高度計を起動します。赤いリングが現れ、高度計が使用中であることを示します。



#### 3. 高度計の設定

(リユーズ位置 2): 位置 2 までリユーズを引き出し、リユーズを回して高度計を設定します。設定モードはさまざまです。たとえば、リユーズを回して、中央のダイヤルの 6 時位置の赤い三角形を基準気圧 QNH/QFE/QNE(空港の管制塔が提供するものなど)に合わせて、わかっている高度に黄色のインジケータを調節したりできます。これで、ウォッチには、現在の高度(黄色のインジケータ)と実際の大気圧(赤のインジケータ)が表示されます。

#### 4. 高度の測定

(リユーズ位置 1): 高度計を設定したら、リユーズを位置 1 まで押し下ろします。高度の変化が、黄色のインジケータと外側のダイヤル リングで、0 ~ 15'000 フィートまたは 0 ~ 4'500 メートル

#### 5. ニュートラルに戻す

(リユーズ位置 0): 高度計を停止してウォッチをニュートラルに戻すには、リユーズを回して位置 0 に戻します。これで、同時にウォッチが密閉され、100 メートル/10 パール防水に戻ります。

